

本当の多文化社会とは

(原文)

山内 ハル (14 歳)

日本&モンゴル<北海道在住>

立命館慶祥中学校

多文化社会について興味を持った。多文化社会とは何か、インターネットのコトバンクで調べた。様々な文化的特徴を有する民族が、お互いの多様性を尊重し平等に共存していく社会、とある。これを読み、現在の世界は本当に多文化社会なのかと思い、父に多文化社会について改めて聞いてみた。

父は、多文化社会とはたくさんの人種が互いに尊重することと言い、例にアメリカを出した。アメリカはたくさんの人種が住んでいるからだ。しかし、私にはすべてのアメリカ人が互いに尊重し合っているとは考えられない。テレビのニュースは、アメリカ国内における白人至上主義や移民排除の動きを伝えている。

本当の多文化社会とはどのような社会なのか、私はひとつの報道をきっかけに改めて考えさせられた。2018 年 4 月 4 日、京都府舞鶴市で行われた大相撲春巡業で、土俵上で倒れた多々見市長の救助にあたった女性たちに対し、土俵から降りるよう求める日本相撲協会の場内アナウンスがあったことが報じられた。その後、海外メディアや国内の一部で、土俵への女人禁制は男女差別であるとの意見が出た。私はその反応を残念に思った。意見を言う彼らは、日本の相撲の分化、歴史を学んでのことだろうか。私もまず、「女人禁制」についてウィキペディアで詳しく調べてみた。女人禁制とは第一義には女性に対する日本民族古来の概念を背景として直接もしくは派生的に発達してきた日本独自の社会慣習の一種である。聖域（神社、霊場、祭場など）への女性の立ち入りを禁止する慣習をいう、とある。さらに、相撲における女人禁制についてもインターネットで調べたのでまとめてみた。相撲の場面の女人禁制とは、土俵に個体としての女性が上がるのを禁止すること。もともと相撲は神事であり、その神事の内容は五穀豊穡を祈るもので、祭られている神様が女性の神様であったため、強い男性を用いて喜ばせたのが始まりだと言われている。そのため土俵に女性が上がると神様が嫉妬するという理由で女人禁制が行われている。これは、女性の神様を敬い尊ぶものであり、決して男女差別からの思想ではないと思われる。相撲以外にも女人禁制をしている日本文化は歌舞伎、能、祇園祭などがあることも知った。また、富士山、比叡山、屋久島、御嶽山などはかつて女人禁制されていたようだ。女人禁制は日本の文化的特徴のひとつである。この文化を差別と言い尊重できないのは多文化社会と言えるのか。

私は本当の多文化社会を実現するためには以下のことが必要だと考え、それに基づいて世界が変化

しなくてはいけないと思う。

- 一、あらゆる人・人種の個性や多様性を尊重できる人間になれること。
- 二、自国の伝統文化をしっかりと理解し愛国心を持つこと。
- 三、人間としての徳を積むこと。

以上を実行することで、様々な国、民族の文化が生き残り、各々が自国の文化のすばらしさを世界の
人に発信できる。

これらを波及させるには、何よりも教育が重要だと思う。教育は、自分の目で見て体験することを第一
とし、広く大きな視野を養うことが重要だ。

最後に、人間としての徳を積むことの大切さを知ってもらいたい。大げさかもしれないが、世界中の
人に知っていただきたいと思う。人間の徳とは何か。それは、自分の魂が善を積み重ね魂がより良くな
ることだ。徳を積むことによって人間は良い人間になれるだろう。良い人間になれば、意見の違う他者
でも尊重できるだろう。

このような考えを抱く私は、モンゴル人の父と日本人の母との間に生まれたハーフである。国籍は
現在、日本国、モンゴル国、両方を取得している。私は日本のこともモンゴルのことも好きだ。私はこ
れからたくさんの世界に行き自分の目で世界を見ていきたいと思う。